

外国语言学及应用语言学研究丛书

现代日语性别表达研究 ——以女性标记词为中心

徐微洁 著



現代日本語におけるジェンダー
表現研究—女性標示語を中
心に—

外国语言学及应用语言学研究丛书

2015年度浙江省哲学社会科学规划课题“日语‘女性标记词’的语义与体系研究”(15NDJC225YB)

2015年度浙江省“钱江人才计划”C类项目“现代日语‘女性标记词’语义内涵研究”(QJC1502007)

現代日本語におけるジェンダー表現研究—
女性標示語を中心に—

现代日语性别表达研究 ——以女性标记词为中心

徐微洁 著



ZHEJIANG UNIVERSITY PRESS
浙江大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

现代日语性别表达研究：以女性标记词为中心 / 徐微洁著. —杭州：浙江大学出版社，2018.6

ISBN 978-7-308-18225-6

I. ①现… II. ①徐… III. ①日语—女性—语言表达—研究 IV. ①H364

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2018)第 099780 号

现代日语性别表达研究 ——以女性标记词为中心

徐微洁 著

责任编辑 黄静芬

责任校对 杨利军 沈 倩

封面设计 城色设计

出版发行 浙江大学出版社

(杭州市天目山路 148 号 邮政编码 310007)

(网址：<http://www.zjupress.com>)

排 版 杭州朝曦图文设计有限公司

印 刷 虎彩印艺股份有限公司

开 本 710mm×1000mm 1/16

印 张 18.5

字 数 381 千

版 次 2018 年 6 月第 1 版 2018 年 6 月第 1 次印刷

书 号 ISBN 978-7-308-18225-6

定 价 55.00 元

版权所有 翻印必究 印装差错 负责调换

浙江大学出版社市场营销中心联系方式：0571—88925591；<http://zjdxcs.tmall.com>

序 文

本書は、平成 26 年(2014 年)に筑波大学に提出された徐微潔氏の博士論文を基に、その後の氏の研究の進展を反映させて上梓されるものである。博士論文では日本語の記述が中心となったが、本書では、新たに日本語と中国語の対照にも射程が広げられ、本格的な対照研究が展開される。

本書の研究対象となる「女性～」「女子～」等の形式は、従来、「女性冠詞」と名付けられ、日本語におけるジェンダー研究の中で、性差別を表すものとして、研究が重ねられ、優れた知見が蓄積されてきた。しかし、それらの研究では、ともすると性差別の存在に関する主張が強調される反面、現象の観察、記述の客観性、実証性に、課題が残る点も否定できない。また、「女性冠詞」という用語についても、言語学で一般に使用される「冠詞」とは異なり、その妥当性が問題となる。

これらの課題を踏まえ、本書では、対象となる形式が新たに「女性標示語」と命名され、徹底した実証的研究が展開される。対象となる各形式の使用実態は、新聞記事、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)等から抽出される大量のデータの観察を中心に記述される。しかしそれだけでなく、他のジャンルの資料を含むコーパスや日本語母語話者に対するアンケート調査等が併用され、データの偏りを補う配慮もなされる。こうしたデータを基に、各形式の使用実態の推移、現状が、巨視的な観点から捉えられる。と同時に、個々の用例について、その使用環境の精緻な観察をも加えられ、徹底して実証的な分析、考察が行われる。その上で、社会的要素をも含め、言語上の性差別の観点から、改めて現象が考察される。こうした点で、本書は対象となる言語現象を表す用語においても、考察の実証性においても、先行研究の課題を乗り越える研究として高く評価できる。

また本書では、日本語の「女性～」「女子～」「婦人～」「女(じょ)～」「女流～」「女(おんな)～」を取り上げ、これら女性標示語間の、類義語としての意味特徴の異同を記述することで、各語の置き換え可能性が説明される。意味特徴で

の女性標示語の分布を捉えることは、個々の形式の使用実態を説明するだけでなく、女性標示語全体の使用の推移を解明する上で重要な視点となる。その点でも、この領域の研究に新たな視点を提起するものとして、本書の貢献は大きい。

さらに本書の最後で取り上げられる日本語の「女～」と中国語の“女(nǚ)～”の対照は、著者の博士論文で築かれた「女性標示語」の分析観点による本格的な対照研究であり、今後、両言語のこの領域の対照研究をリードする先駆的な位置づけを担う論考となろう。

本書により、日本語、中国語におけるジェンダー表現研究が多方面に展開、進化されていくものと強く期待される。

徐微潔氏の筑波大学大学院での日々は、常に言語に真摯に向き合い、ひたむきに研究に取り組むものであった。まだ生まれて間もないお子さんを中国に残しての留学生活は、母親として、時に苦しいものでもあったに違いない。それら乗り越えて提出された博士論文は優れたものであったが、その研究が、その後の同氏の研究の着実な進展も反映させた形で、このように世に問われることは、指導教員として、同氏の研究にいくらかでも関わった者として、誠に喜ばしく、誇らしいことである。本書が多くの方々に読まれ、その学的貢献を十分に果たすことを願ってやまない。

沼田善子

筑波大学人文社会系教授

2018年4月

序

2014年,徐微洁同学向筑波大学提交了博士论文。本书是在其博士论文的基础上,增加之后的研究进展后出版的。其博士论文主要研究日语方面的内容,本书则将日语与汉语的对比也纳入了深入研究的范围。

本书的研究对象为「女性～」 「女子～」等,这些语言形式之前被命名为“女性冠词”。在日语的性别研究中,研究者研讨了表达性别歧视的语言形式,取得了不少研究成果。但不可否认的是,这些研究在强调此类语言形式存在性别歧视的同时,在现象的观察、描写的客观性和实证性方面还留有课题。此外,“女性冠词”这个用语,与语言学中一般使用的“冠词”存在差异,其妥当性也成为一个问题。

基于以上这些问题,本书将此类语言形式重新命名为“女性标记词”,并开展全面、彻底的实证研究。通过从报纸的报道、现代日本语书面语均衡语料库(BCCWJ)等语料中抽取大量的数据,厘清各语言形式的使用现状。考虑到数据的齐整、全面,本书同时使用包含其他类型资料的语料库,并对日语母语使用者实施问卷调查。以这些数据为基础,本书从宏观的视角来探讨各语言表达形式使用状况的变迁与现状。与此同时,本书详尽探究了各例句的使用环境,并进行了全面、彻底的实证分析和考察。而且,本书从社会因素、语言性别歧视的视角再次考察了这些语言现象。因此,本书无论是在对研究对象命名的妥当性上,还是考察的实证性上,都将超越相关研究,其研究成果值得高度评价。

此外,本书选取日语的「女性～」 「女子～」 「婦人～」 「女(じょ)～」 「女流～」 「女(おんな)～」为研究对象,通过分析这些女性标记词作为近义词时的语义异同,探究了各表达形式之间相互替换的可能性。在解释各语言形式的使用现状和考察女性标记词整体的使用嬗变上,探讨女性标记词的语义特征分布是本书一个重要的研究视角。本书贡献巨大,对该领域的研究提出了一个崭新的视角。

再则,本书最后选取日语的「女～」与汉语的“女(nǚ)～”进行对比研究,这

是基于作者博士论文中建构的“女性标记词”的分析观点而进行的。我想，今后它也会成为引领两种语言在该领域对比研究的先驱性研究。我由衷希望，本书的出版能带动日语和汉语性别表达研究的多方面发展与深化。

徐微洁同学在筑波大学攻读博士学位期间，一心扑在学术研究上。作为一名母亲，她把年幼的孩子留在中国，只身一人赴日本求学，这想必时常会令她感到痛苦。但是，她克服了这些困难，提交了质量上乘的博士论文。博士论文与她之后的研究进展现以书籍的形式问世，作为她的导师，也作为与她的研究有着密切关系的人，我由衷地感到高兴和骄傲。衷心希望本书被众多读者喜爱，也希望本书能充分展现它的学术价值。

沼田善子

筑波大学人文社会系教授

2018年4月

目 录

第 1 章 研究背景和定位	1
1.1 研究背景和研究问题	1
1.2 对各形式的概观	20
1.3 研究方法	40
1.4 各章概要	43
第 2 章 「女性～」的使用现状及语义内涵	47
2.1 引 言	47
2.2 调查概要	47
2.3 分 析	48
2.4 考 察	58
2.5 小 结	64
第 3 章 「女子～」的语义内涵及接续限制	65
3.1 问题的提出	65
3.2 调查概要	66
3.3 结果与分析	67
3.4 考 察	76
3.5 小 结	82
第 4 章 “二战”后「妇人～」的流变	84
4.1 前 言	84
4.2 调查概要	84
4.3 「妇人～」的各年度出现频率	85

4.4	「婦人～」构成的合成词	91
4.5	引起流变的原因	98
4.6	小 结	104
第5章	「女(ジョ)～」的使用现状及其原因	105
5.1	问题的提出	105
5.2	数据概要	107
5.3	结果与分析	108
5.4	「女(ジョ)～」的用法	116
5.5	「女(ジョ)～」的接续限制以及使用变化的原因	119
5.6	小 结	123
第6章	「女流～」的历史与现在	124
6.1	问题的提出	124
6.2	调查概要	124
6.3	结果与分析	125
6.4	考 察	138
6.5	小 结	141
第7章	「女(オンナ)～」的使用现状及语义内涵	142
7.1	第5章阐明的问题以及遗留的研究问题	142
7.2	数据概要	143
7.3	调查结果与分析	143
7.4	「女(オンナ)～」的接续限制以及使用变化的原因	155
7.5	小 结	161
第8章	“二战”后男性标记词的使用变化及其原因	162
8.1	前 言	162
8.2	相关研究与问题点	163
8.3	调查方法	164
8.4	统计与分析	165
8.5	考 察	175
8.6	小 结	179

第 9 章 日语「女～」和汉语“女(nǚ)～”的异同	180
9.1 前 言	180
9.2 数据的概要以及比较对象的界定	181
9.3 调查结果与分析	182
9.4 产生差异的原因	188
9.5 小 结	193
第 10 章 汉语“女(nǚ)～”的用法及后项语素特征	195
10.1 前 言	195
10.2 调查概要	196
10.3 “女(nǚ)～”的分类	196
10.4 “女(nǚ)～”的后项语素与用法	198
10.5 小 结	205
第 11 章 结语与今后研究问题	207
11.1 结 语	207
11.2 今后的研究问题	215
参考文献	217
附 表	231
问卷调查	278
アンケート用紙	280
索 引	282
后 记	286

第1章 研究背景和定位

1.1 研究背景和研究问题

本书以现代日语的性别表达为研究对象。性别表达指在语言中性别如何被表达。本书主要选取了表示女性这一性别的语言形式——女性标记词。

本书中的“女性标记词”^①指表示女性的合成词前项语素,是积极标记“女性”的一种语言表达形式,如「女性科学者」(女性科学家)、「女子アナウンサー」(女播音员)、「女社長」(女经理)、「婦人警察官」(女警察)、「女流作家」(女作家)中的「女性～」 「女子～」 「女～」 「婦人～」 「女流～」。

本书采用上述定义,主要是因为要探讨女性这一性别在语言中是如何被表达的。因此,本书将「女性雑誌」(女性杂志)、「女子大学」(女子大学)、「女目線」(女性眼光)、「婦人用品」(妇女用品)等不表示人类的合成词排除在外。

日语中的女性标记词主要有以下几种:「女性～」 「女子～」 「婦人～」 「女流～」 「女～」 「ママさん～」 「美人～」 「主婦～」 「美女～」 「美少女～」 「少女～」 「ママ～」 「おばさん～」 「マドンナ～」。

(1) 宝石を一つもつけない質素な黒い服で、晩餐会に列席している女性科学者というめずらしいものをおどろきの目で見つめた。(エレ

① 田中和子(1984: 195)曾将此类语言表达形式命名为“女性冠词”,并将其定义为:“我们暂且将为了把女性从‘男性=人类’区别开来而标记的「女○○」「女子○○」「女性○○」「女流○○」等表达称为‘女性冠词’。”但是,“冠词”这个名称在语言学上是指没有具体意思的功能性词语“article”。考虑到日语是没有冠词的语言,且田中和子的定义尚有不明确之处等,笔者尝试重新命名、定义此类语言表达形式,并将其命名为“女性标记词”。

ノア・ドーリー作/榊原晃三訳『キュリー夫人』)^①// 女科学家穿着朴素的黑色服装参加晚宴,没有佩戴任何珠宝首饰,人们用惊诧的目光盯着这位新奇的来客。(埃莉诺·多莉著/榊原晃三译《居里夫人》)

- (2)多くの女子アナウンサーが輩出し、女子アナの登竜門と言われることもある慶応義塾大学の学園祭・三田祭の「ミス慶応コンテスト」。今年、2年ぶりに開催された。(『朝日新聞』2011-12-8)//庆应义塾大学的校园文化节——三田祭的“庆应小姐大赛”中女播音员人才辈出,它也被认为是(年轻女性)成为女播音员的捷径。时隔两年,今年“庆应小姐大赛”又举行了。(《朝日新闻》2011-12-8)

- (3)また、婦人警察官、婦人交通巡視員、婦人補導員等の婦人職員は、交通安全教育、駐車違反の取締り、少年補導、要人警護、犯罪捜査等多方面的業務に従事している。(警察庁『警察白書』)//此外,女警察、女交通巡视员、女辅导员等女职员从事交通安全教育、违章停车管理、少年辅导、政要护卫、犯罪搜查等多项业务。(警察厅《警察白皮书》)

- (4)マリー・ローランサンは二十世紀に活躍したフランスの女流画家で、パステルカラーの透明感のある優美な女性像を描き、日本でも人気が高い。(横田宏近・高橋彩 CAR and DRIVER)//玛丽·罗兰珊(Marie Laurencin)是活跃在20世纪的法国女画家,她擅长创作色调柔和、晶莹剔透的优美女性画像,在日本也很受欢迎。(横田宏近、高桥彩《汽车和司机》)

- (5)麻子が規範とする女社長なんかには、大企業の庇護にしがみつく僕など旧石器時代の原始人に見えるに違いない。(鱧余夢紋『メガネをかけた犬』)//在麻子视为模范的女经理中,肯定有我这种贪恋大企业庇护的、看着像旧石器时代原始人的人。(鱧余梦纹《戴着眼镜的狗》)

- (6)ママさん飛行士と呼ばないで——シャトルで宇宙へ旅立った山崎直子さんは以前、そう語っていた。パパさん飛行士とは言わないのだから、それも当然。(『朝日新聞』2010-4-6)//请不要叫我妈妈宇航员——搭乘航天飞机在宇宙翱翔的山崎直子曾这么说过。因为不说爸爸宇航员,所以她这么说也是理所当然的。(《朝日新闻》2010-4-6)

① 本书的日语例子主要来自《朝日新闻》和现代日本语书面语均衡语料库,少部分来自网络。汉语的例子主要来自《人民日报》、北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库和国家语委现代汉语通用平衡语料库。此外,例子中的翻译和下划线为笔者所加(其中标明译者的除外)。

- (7)何万ドルや何千万円もの賭けゴルフをする美人ゴルファーがどんな顔の持ち主なのか、まるで見当もつかなかった。(川上健一『虹の彼方に』) // 花几万美元或几千万日元赌球的美女高尔夫运动员到底长什么样呢? 我根本无法想象。(川上健一『彩虹的那边』)
- (8)従来のスタイルだけでなく、ばら売りや、量り売りといった工夫が必要になっており、優秀な主婦パートの活用が、売り上げを左右する(イトーヨーカ堂)との声も上がっている。(『読売新聞』2003^①) // 有人认为,除了原有的形式,也有必要增加零售、论斤销售等形式,活用优秀主妇员工可左右销售额(伊藤洋华堂)。(《读卖新闻》2003)
- (9)「せ」は「千本の桜が迎える夏井川」、「ゆ」は小野小町伝説の町らしく「ゆかしさよ小野小町は美女短歌诗人」といった具合で、参加した子どもたちは読み上げられるたびに絵札に駆け寄っていた。(『朝日新聞』2009-1-11) // “se”是“千棵樱迎客的夏井川”,“yu”像小野小町传说之城“优雅高贵啊美女短歌诗人”——每每读到这些假名和词语,参加活动的孩子们就向俯身过去抢牌。(《朝日新闻》2009-1-11)
- (10)01年、高校2年で世界選手権に初出場し、「美少女スイマー」として注目を集めた。アテネ五輪は200メートル8位。(『朝日新聞』2009-4-18) // 2001年,正在读高二的她首次参加世锦赛,作为“美少女游泳选手”受到关注。在雅典奥运会上她获得200米游泳的第8名。(《朝日新闻》2009-4-18)
- (11)少女漫画家という一風変わった人種をよく観察できたのも収穫だった。(久保象『大麻所持逮捕の全記録』) // 能仔细观察少女漫画家这个另类群体也是一种收获。(久保象《携带大麻被逮捕全记录》)
- (12)小児科や産婦人科などで医師不足が広がる中、出産などを機に現場を離れたママ医師の復帰を助ける「女性医師バンク」の取り組みが各地で進んでいる。(『朝日新聞』2006-9-1) // 在小儿科和妇产科医生缺口越来越大的情况下,“女性医生银行”的活动在全国各地展开。这个活动旨在帮助因生产而离职的妈妈医生重回职场。(《朝日新闻》2006-9-1)
- (13)パーソナリティーがおじさんや若者でも、私たちおばさんリスナーを大切にしてくれる番組であれば、誰が出演しても構わないと思いま

① 本例虽出自报纸,但收集自现代日本语书面语均衡语料库。该语料库中的新闻仅标注了年份,没有标注具体日期。

す。(『朝日新聞』2010-3-10) // 只要是重视我们这些阿姨听众的节目,那么主持人不管是大叔还是年轻帅哥都无所谓。(《朝日新闻》2010-3-10)

- (14) 社民党を離れて民主党から出た千葉氏は、現職の知名度を生かして、民主、旧社会支持層や無党派層に食い込むことができた。女性候補が乱立する中でも、「マドンナ議員」の知名度で中高年女性を中心に支持を集めた。(『朝日新聞』1998-7-13) // 离开社民党加入民主党的千葉女士,利用现职的知名度,成功融入民主、旧社会支持层和无党派层。即便女性候补议员泛滥,她也因“麦当娜议员”的知名度而获得了中老年女性们的支持。(《朝日新闻》1998-7-13)

本书的考察对象为日语主要女性标记词「女性～」 「女子～」 「婦人～」 「女流～」 「女～」这五种语言表达形式^①。

1.1.1 在性别表达研究中的定位

性别(gender)原为法语、德语等语言中区别男性名词和女性名词的语法用语。但是,随着女权主义运动^②的兴起,性别这一词语不再是简单的语法用语,而是开始被用于表示“被社会性、文化性、历史性建构的性别”这层意思,现在多用于表示这层意思。

以“语言与性别的关系”为中心研究问题的系列研究曾被称作“语言的性别差异研究”“性别歧视与语言研究”“女权主义语言学”等,但近年来“语言与性别研究”(language and gender studies)这个名称固定了下来。可以说,这是吸纳了建构主义理论的缘故。建构主义是作为本质主义^③的反命题而诞生,并在近年的社会科学、人文科学等领域引领潮流的认识论和方法论。

依据以上这种研究趋势,本书使用“语言与性别研究”这个名称。

“语言与性别”的问题在社会学、人类学、精神分析、记号论、语言学等各种

① 「ママさん～」 「美人～」 「主婦～」 「美女～」 「美少女～」 「少女～」 「ママ～」 「おばさん～」 「マドンナ～」的出现频率低、例子少,因此本书后续章节的研究将这些女性标记词排除在外。

② 女权主义是以对女性的歧视为根据,针对政治、经济、社会,以及其他所有形式的歧视和不平等,分析其过程和实况,提出异议、要求撤销的实践性思想(诸桥泰树,1996:75)。女权主义运动与之前的女性解放运动的不同之处在于:女性解放运动旨在提高女性的参政权和继承权等法律地位,而女权主义运动则以女性(和男性)的意识改革为中心。

③ 所谓“本质主义”,是指将性别、人种、阶层、年龄等影响人的要素视作人的内在特质之一(属性)的想法。本质主义的性别观有以下三个特点:①性别是二元对立的;②性别是属性;③性别先于语言而存在。与此相对,建构主义的性别观则有以下四个特点:①性别是多样的;②性别是变化的;③性别并非主体内在的本质,而是主体的行为;④因此,语言行为与性别的关系是相反的。详见中村桃子(2002a)。

领域被提及。如果聚焦于语言学的研究,那么可以将迄今为止的研究分为两大潮流。

第一大潮流聚焦于描写女性和男性的词语方面的研究。主要研究的是:指代女性的词语有哪些,它们与指代男性的词语有何不同,这些词语如何描写女性,如何系统看待它们之间的差异,为何会使用不同的词语来表达等。本书所选取的研究问题,也包含在这个潮流中。

这个研究领域的特点是,它与女权主义的语言改革运动紧密结合,“可以被称为语言的女权主义运动”(阿部圭子,2005:20)。特别是在英语圈,这个领域的研究萌芽于 Jespersen(1922),20世纪60年代研究正式拉开序幕,到了20世纪70年代研究开始活跃,最终成为旨在提高女性社会地位、废除歧视用语的社会制度改革。主要的研究有 Jespersen(1922)、Lakoff(1973,1975)、Thorne & Henley(1975)、Spender(1980)、Cameron(1985,1990)等。

另一方面,提及日语与性别的关系,值得大书特书的研究则是寿岳章子(1979)。寿岳章子(1979)明确否定二元对立^①式的“语言的性别差异”,认为对立式描述男女的说话方式、书写方式是不可能的,她指出了语言规范与语言实践的多样关系,可以说她的著作是“最早将日语中女性的用语与女性的生活方式相结合写就的书”(远藤织枝,2005:18)。寿岳章子(1979)之后,基于女权主义视角的性别差异研究开始普及,词典和媒体的用语开始被研究(远藤织枝,1981,1982,1987,1992,1997b,1998,2001;思考词语与女性之会,1985;思考媒体中的歧视之会,1991a;上野千鹤子、思考媒体中的歧视之会,1996;等等)。

远藤织枝(1981)批判性地认为,国语词典本身的结构就非常具有歧视性。比如,评价妻子的词语有「恶妻」(恶妻)和「良妻」(贤妻)等,但却没有相应的「恶夫」(恶夫)和「良夫」(贤夫)等词语。远藤织枝随后对「主人」等日语的歧视表达进行了综合研究。思考词语与女性之会(1985)指出了词典的定义与例子中的性别歧视。思考词语与女性之会(1991a)分析了报纸报道中男女性的问题点,使研究得到进一步发展,上野千鹤子、思考媒体中的歧视之会(1996)对日本的报纸报道提出了性别公正报道的五大原则:①不问性别信息(gender-free);②性别公正(gender-fair);③(两性的)对称对待(parallel-treatment);④综合性表达(inclusiveness);⑤去固定概念(bias-free)。

第二大潮流是关于措辞方面的性别差异研究。迄今为止,在社会语言学、

① 所谓“二元对立”,是指性别只有“女性”与“男性”两种,且两种性别在所有方面都处于对极的想法(中村桃子,2002a:25)。依据这种想法,男女之间说话方式的差异远大于女性之间的差异和男性之间的差异。因此,之前的研究都是“女性与男性如何使用不同的措辞”。详见中村桃子(2002a)。

语用论、会话分析等各种领域,都开展了围绕语言使用的性别差异实证研究。早期的研究主要是在男性与女性的语言使用有何差异这一问题意识下对“语言的性别差异”进行验证,但随着研究的推进,研究者发现语言的性别差异并非可以普遍、固定对待的内容。也即,说话者与生俱来的生物学性别这一要素与“年龄、人种、职业、社会地位、居住地区”等各种社会因素相结合,共同影响语言使用,语言使用方式无法单纯根据性别来一分为二。

在英语圈,研究者们试图从各种角度探究语言与性别的关联,以及男性与女性所使用语言的差异。比如,音韵(Labov,1972a,1972b;Trudgill,1972)、表达(Edelsky,1977)、发话行为(Hymes,1972;Kuhn,1982;Tannen,1990)、交际(Blakar & Pedersen,1980)等。

有关日语措辞方面的性别差异研究始于20世纪前半叶,不问文化意识形态与其权力作用的“女性语研究”曾长期占据主流地位。最早关注女性语的是日本国语学者菊泽季生。菊泽季生(1929)未考察时代背景和女性的社会地位,他将“女房词”与“普遍的女性用语”相关联,认为其既高贵且优美。此外,菊泽季生(1933)将物理学的位相(phase)^①这个概念引进日语的研究中并开拓了位相论,他提倡从社会属性差异和文体差异方面来综合考察日语中的变异现象。位相论以语言因人而异、因状况不同而不同的现象为出发点,试图在这些语言的差异当中寻找与某些原因结合的倾向性。这与现在社会语言学的方法论相通。位相论这个概念“打开了日语性别差异研究的开端,同时在确立之后的日语女性语研究领域方面发挥了重要作用”(阿部圭子,2005:32)。其后,礼貌的敬语被视为“女性语”的特征,与「女らしさ」(像女人)这一意识形态相结合,并取得了众多研究成果(井出祥子,1979,1993,1997;远藤织枝,1997a;中村桃子,2001,2007a,2007b;现代日语研究会,1997,2002,2011)。

井出祥子(1979)提及了英语和日语,详细介绍了美国的语言与性别差异研究,并尝试分析了现实中女性的说话方式。井出祥子(1979:64)将女性的口语、女性的书面语、描述女性的词语作为“女性的语言”,认为在女性的说话方式和书写方式中体现出来的特征“反映了日本女性的现实”。井出祥子(1997)认为,女性语研究应该在考虑各自的社会文化中男女地位、作用有何不同的基础上,观察、记录、描述男性与女性使用何种不同的语言表达,并指出女性语有以下特征:语言表达委婉,回避草率的表达、低级的表达,以及超脱规范、不礼

① 菊泽季生(1933)将说话者的性别、年龄、职业等属性,以及因场合不同而词语有异的现象均当作位相(phase),并将说话者使用的词语称作位相语(group language)。位相语也被称为集团语,它包括女房词、游里语等女性使用的位相语,也包括武士用语、工匠用语等表示男性的位相语。

貌的表达等。

远藤织枝(1997a)分析了从古代到20世纪末提倡的女性措辞方面的研究,探讨了女性与语言的关系。她指出,女性用语经历了潜在期(古代)、显在期(镰仓室町时代)、制约的强化(江户时代)、消解(昭和时代),现在(20世纪末至今)是女性创造语言的时代。

近年,“语言与性别”研究的关注点转向人们通过语言的相互行为构建何种“性别身份”(gender identity)^①,以及在特定的历史、政治状况下“性别意识形态”(gender ideology)^②如何被建构的问题。中村桃子(2001)介绍了英语圈的此类研究。与以往的研究不同,中村桃子(2007a)将“女性用语”视作意识形态(语言的性别意识形态),用建构主义的方法论探讨了“女性用语”的历史性形成过程。佐竹久仁子评价此书时认为,“虽然资料的处理方式有欠慎重之处,但此书在思考语言与性别、语言与统治等问题方面有着可供借鉴的真知灼见”(2009:85)。此外,中村桃子(2007b)从“语言资源”^③这一崭新的视角和性取向(sexuality)的视角切入语言与身份的关系,试图描绘出自由且丰富的日语之姿。

现代日语研究会于1997年出版了《女性的语言——职场篇》,2002年出版了《男性的语言——职场篇》,2011年出版了两本书的合集,作为受东京女性财团资助的研究成果。这三本书阐明,以前国语学者主张的观点——女性多使用敬语,这在现代职场未必就普遍,以及女性和男性几乎都不使用被视为女性专用语、男性专用语的用语。此外,可以说现代日语研究会将通过调查和研究获得的鲜活会话资料作为语言语料库加以精制、公开,这一点也意义重大。

对于上述有关语言与性别的两大潮流,中村桃子(1995)将前者命名为“性别表达研究”,后者命名为“语言使用与性别研究”,并将前者再细分为两种,即“描述女性的语言”的研究和“描述男性的语言”的研究。本书沿用中村桃子(1995)的用语。此外,如前所述,语言使用的方式无法单纯地用性别来一分为

① “建构主义”的性别观认为,人类通过使用语言,在相互交往中能主动地建构性别身份。基于这种性别观,可以说性别是与种族、年龄、职业、经济阶层等共同建构身份的必要因素。中村桃子(2001)将其命名为性别身份,用“女性性、男性性”来替换「女らしさ、男らしさ」这种二元对立式名称。

② “性别意识形态”也被称作性别规范,是“根据性别方面的话语分析的积累,在特定的社会中历史性建构的各种女性性、男性性、两性性(性别身份)被体系化的意识形态”(中村桃子,2001:115)。“性别意识形态”这一概念将有关性别的定见从生物学性差异中分离,使通过话语分析,历史性阐明性别成为可能(中村桃子,2001:115)。

③ 我们在进行交际时,特定的措辞与特定集团的身份联结在一起。我们在塑造各种人物时,要将这种联结视作“语言”的知识、材料和资源(中村桃子,2007b:14-15)。